

ヒマラヤ

No.379



2003 JUN



THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN

日本ヒマラヤ協会

HAJ

2004年HAJサマー・キャンプ隊員募集

カラコルム スパンティーク(7,027m)

パキスタンの登山は、スカルドへのフライトや、ポータートラブルなど、短期間登山にとっては、幾つかの問題がありますが、情報の収集や強力なスタッフ配置、隊員の積極的な参加によって対処して成功に結びつけたいと思います。

記

1. 期間：2004年7月18日(金)～8月25日(月)
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：75万円
4. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5. 申込〆切：11月30日(定員になり次第〆切)
6. その他：HAJの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。高所ポーターは使用しません。隊員による自力登山です。

チベット カンペンチン(7,281m)

シシャパンマの北麓の大地を進むと屏風のように白い山脈が連なっています。その主峰がカンペンチンと呼ばれる山です。まるでヒマラヤ山脈を守るかのように立派な牙のように鋭峰(北峰)を持った山です。1982年と1998年に日本隊によって登頂されていますが、ルートはその東面を予定しています。

記

1. 期間：2004年7月22日～8月27日(37日間)
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：85万円
4. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5. 〆切：定員になり次第
6. その他：HAJの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。また、高所ポーターを使用しない隊員による自力登山です。

表紙写真

写真はヒンドゥ・クシュ山脈第二の高峰ノシャック(7,492m)。アフガニスタンの最高峰でもある。Shaqはペルシャ語で「角」の意で「9つの角」という山名を持つ。1960年にAACKによって初登頂されて以来ヒンドゥ・クシュ登山最盛期に多くの登山隊を迎えたが、現在は戦争、内乱とアフガニスタン側からの入域は困難となってしまった。世界平和があってこそその「ヒマラヤ登山」を痛感させられる。

(文と写真：野沢井歩)

ヒマラヤ No. 379

1. オン・サイトとアルパイン・スタイル

山森欣一

2. 人喰の鬼「オーガ」を登る

4. ロー・マンタンの空、遥かなり(10)

高橋 照

8. 11. ネパール人のエヴェレスト・サミッター

9. ヒマラヤニュース〈地域ニュース・トピックス・Books〉

24. 寸感・事務局日誌

オン・サイトとアルパイン・スタイル

1953年に三つの巨峰が初登頂された。5月29日、世界最高峰エヴェレスト、7月3日、ナンガ・パルバット、8月28日、ヌンである。主役はそれぞれエドモンド・ヒラリー、ヘルマン・ブール、クロード・コーガンであった。今年はその初登頂50周年であり、エヴェレストとナンガ・パルバットでは記念行事が予定されている。

2月、日本山岳協会では、エヴェレスト初登頂50周年を記念して南西壁の初登攀者であるダグ・スコットを招聘して記念講演会を行った。彼はの中で登山について「安全の範囲を可能な限り小さくする。不確実なことに挑戦する」ことを強調した。

4月、国際山岳年日本委員会と国連大学が共催したフォーラムで、衛星TVでニュージーランドのオークランドと会場を結んだトークでエドモンド・ヒラリーは、現在、エヴェレストで行われているガイド登山について「高所ウォーキングに過ぎない」と、その冒険性のなさを痛烈に批判した。

☆

1895年、アルバート・フレデリック・ママリーは、ナンガ・パルバットをアルパイン・スタイルで挑戦した。これが世界で初めて八千メートル峰への挑戦であったのである。なんとという大胆な冒険！。しかし、彼は生還できなかった。

1907年、トム・ロングスタッフは、北面からオン・サイトの7日間のアルパイン・スタイルでインド、ガルワール・ヒマラヤのトリスル（7,120m）を初登頂した。これが人類が初めて七千メートル峰の頂上に立った記録であった。

1911年、アレキサンダー・ミッチェル・ケラスは、5日間のアルパイン・スタイルでインド、シッキム・ヒマラヤのパウフンリ（7,128m）を初登頂した。トリスルに次ぐ記録である。

よく知られているように、モールス・エルゾーグに率いられたフランス隊が、オン・サイトでアンナブルナIを見事に7日間で初登頂したのは1950年のことであり、これが人類初の八千メートル峰の頂であった。

驚いたことに、ヒマラヤの高峰の初登頂は七千メートル峰はオン・サイトのアルパイン・スタイルで、八千メートル峰もオン・サイトで達成されているのである。

1957年、ナンガ・パルバットの変形単独初登頂に成功したヘルマン・ブールは、クルト・ディームベルガー、マルクス・シュムック、フリッツ・ヴィンターシュテラーと組んで、ブロード・ピークを高所ポーターを使わずに隊員だけで初登頂した。終了後、マルクスとフリッツはスキル・ブルム（7,360m）をオン・サイトのアルパイン・スタイルで初登頂に成功。ヘルマンとクルトも同様にチョゴリザに挑戦したが、断念し下降中にヘルマシが転落死亡し、明暗を分けたのであった。そのマルクスは、『ブロード・ピーク登攀後、わたしはフリッツとエベレストをふたりで、酸素吸入器を持たずに、もちろん高所ポーターの助けも借りずに登るつもりだった』と語った。これはママリーを凌ぐ柔軟で過激な冒険ではないか。

☆

ラインホルト・メスナーは、『チョー・オユーやブロード・ピークではたしかに軽登山が行われた。だがこんにちの意味での「アルパイン・スタイル」にはまだまだ遠くへだたるものだった』と語り、スティーヴン・ヴェナブルズは、『「アルパイン・スタイル」とは、一連のルールというより、ひとつの理想である。少ないもので多くを成しとげようとする原則である』と語っている。

☆

現代のヒマラヤ登山における冒険は、山を見る確かな目によって選択されたルートของ オン・サイトやアルパイン・スタイルにこそ求められるといえよう。勿論、Without Oxygenで。（山森 欣一）

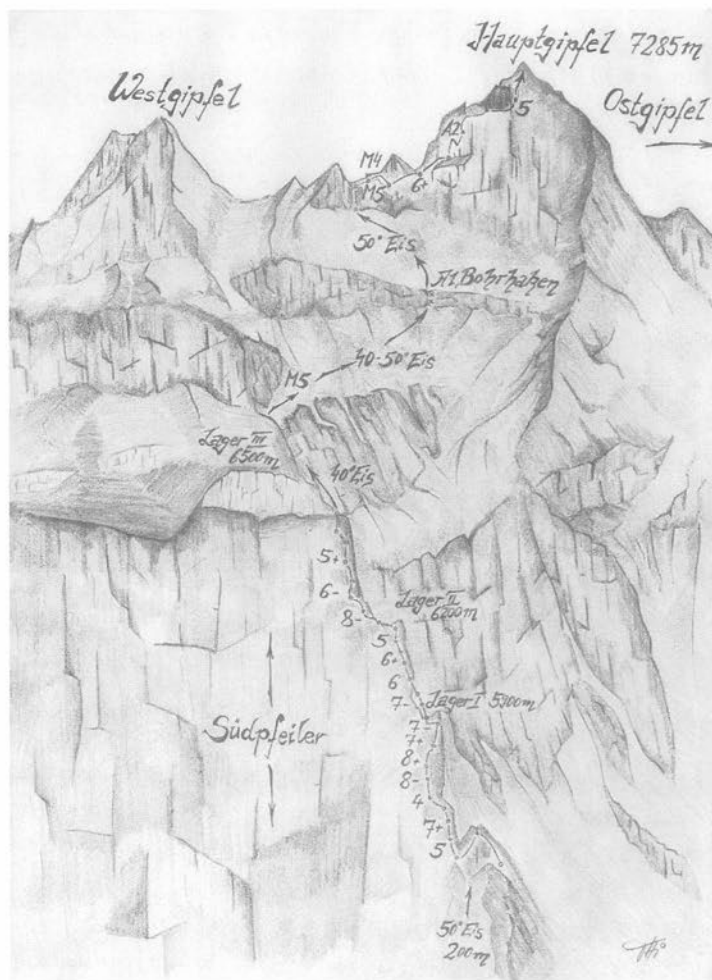
人喰の鬼「オーガ」を登る

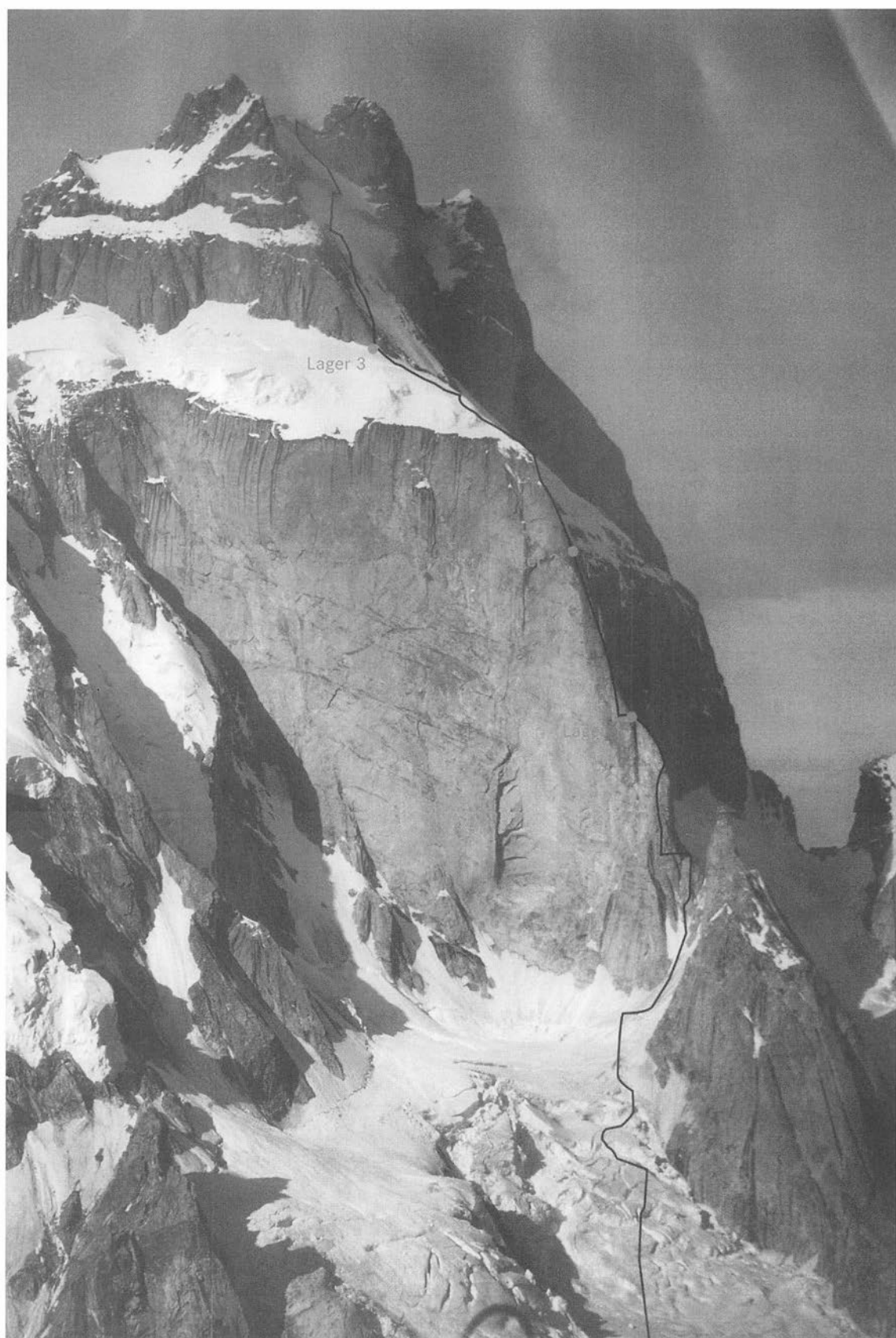
2月に来日したダグ・スコット氏は講演でエベレスト南西壁初登攀のスライドは持ってこなかったが、その2年後のバインターブラック(7,285m)初登頂とその後の生還劇のスライドは持ってきていた。曰く、「エベレストに登って有頂天になっていた私に、お灸をすえた登山だった。」と。そのバインターブラック「人食い鬼(オーガ)」はボニントン、スコット以来数多くの登山隊を退けてきたが、2001年ドイツのトーマス・フーバー以下、スイスのイワン・ヴォルフとウルス・シュトッカーの3名が、サウスピラーから24年ぶりに第二登を成し遂げた。その豪華報告書が昨年出版された。

トーマス・フーバーは、ヨセミテ・エルキャピタンでのフリークライミングで有名なフーバー兄弟の兄の方である。フリークライミングでは弟のアレックスの方が有名だが、フーバー兄弟は1997年ラトックⅡ峰(7,108m)の西壁を弟やコンラッド・アンカーといったクライマーと初登攀、2000年にはアレックスが体調不良で下山した後、BCで即席パーティーを組みシブリン(6,542m)北稜ダイレクトを初登攀をするなど ヒマラヤでも活躍している。1999年一度敗退したオーガに、2001年トーマスはシブリンでロープを結んだメンバーで再挑戦、見事に栄冠を手にした。この本ではボニントン隊の写真・記録のほかに多くページを使い、スペイン、ドイツなどの、この山に挑んだ多

くの登山隊の記録も豊富な写真で紹介されている。「岩と雪」の英文サマリーを筆者がトーマスに送付したこともあり、日本隊の活動も一項設けて紹介している。トーマスのこれまでのヒマラヤ登山、ラトックⅡやシブリン(6,542m)の報告も紹介され内容は盛りだくさんとなっている。巻頭にはメスナーとアシュラフ・アワンが文章を寄せ堂々たるつくりとなっているが、残念ながら私はドイツ語は不案内なために、内容を紹介することは出来ない。各隊の写真やルート図で登山の様子がわかり、面白い。登攀中の写真がこれほど多く紹介されているのも珍しい。インターネットブックストアのAMAZONで3,499円だが、現在在庫切れとなっていた。是非とも日本語で読みたいものである。(中川 裕)

Ogre(オーガ)トーマス・フーバー著
カラー・変 A4版・175頁
出版: blv(ドイツ)





ロー・マンタンの空、遥かなり(10)

カリガンダキ左岸の地図の空白部に行く

マルファのこと

高橋 照

私はブッディ・バードルより馬を借りているので、トゥクチェを先発よりは3、4時間も遅れて、ゆっくりと出発した。通いなれた道なので一人でとぼとぼ行っただけで、何の気兼ねもなくよかった。馬方は12歳ぐらいの少年で、トゥクチェのチョルテンの門をくぐると、さっさと私に手綱を渡し、あとから道草を喰いながらついて来た。私もその方が気楽でよかった。手綱を持ってくると余計なことを話しかけたり、話しかけられたりするからだ。ここからジョムソムまでは危険な箇所は全くない。

トゥクチェの町に居る時は、全然気がつかないことであったが、町を出ると真新しい電柱が等間隔で立ち並び、電線が張られてあった。三本の電線なので三相なのだろう。一体電気は何処から送られて来ているのであろう。今回の旅行で私の見た電柱の最後は、ポカラの近くのチベットン・キャンプまでであった。それからの道中では、電気と名のつくものは何もなく、暗い道である。それなのに、どうしてこんな奥地に電線が張られているのであろう。ところどころにはトランスを上げるために、三本の柱の電柱もある。電線は果てしなく

北に続いていく。私は馬方の少年を呼んで、「このビジョリ（電柱）は何処から来ているんだね」

「この先のチミの奥のコーラに、発電所を造っているんです」

「チミ？ チミってこのすぐ先の、ボテの病院のあるところかね」

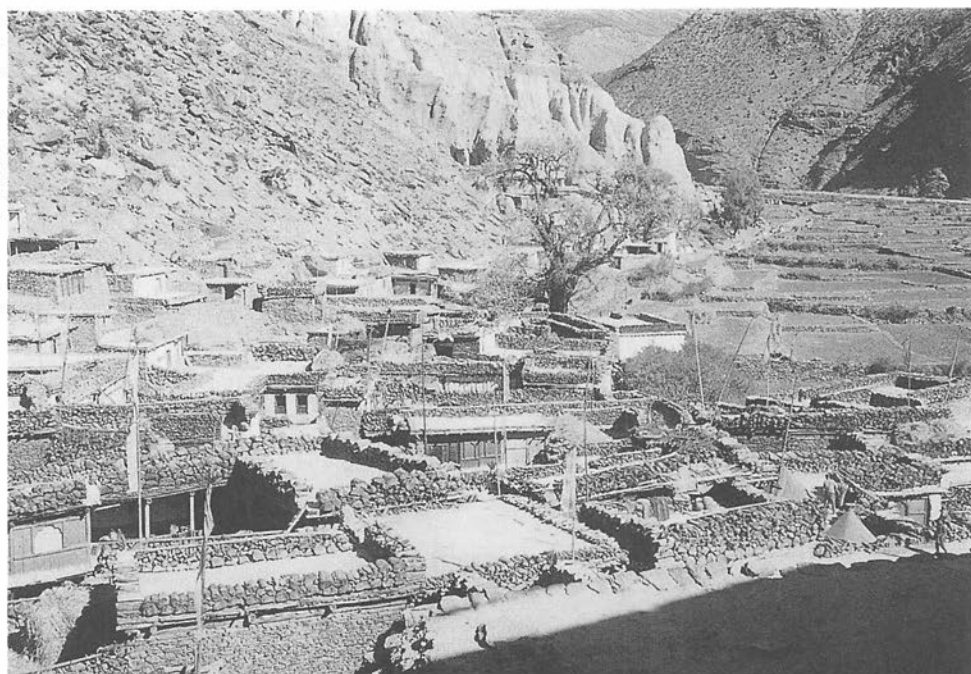
「そうです。そのずっと奥に急な谷が入っているのですが、そのへんでしょう。私は聞いただけです」

たしかに、雨期には白い滝になっている谷があったと、私は思いだした。そうすると、道々追いつ追われつつ来て、太い鉄パイプを運んでいたポーター達は、ここまで運んでくるのかとはじめて納得した。直径1メートル近い鉄パイプなので、出力はかなり大きなものになるのかも知れない。少年に聞いても出力など判る筈はない。もっと早く知っていたならトゥクチェで聞いておくんだと悔やまれたが、いまさらどうしようもない。私の友人で電気局にいるアシュラムという男がいる。彼は今、東ネパールのオカルドゥンガで小規模な発電所を造り、オカルドゥンガの村にだけ電灯を灯そうとする政府のプロジェクトの仕事をしている電気技師である。

彼の話によると、今ネパールでは集落単位の小規模発電所を各所に計画中ということだ。大規模な水力発電は、当然外国の援助にたよるほかはないが、小さな水力発電や、火力による小規模のタービン発電所なら自力で出来るので、今後この方式の発電所が各地域に出来るだろうという話であった。このタック・コーラ地方の水力発電は、南はレティ、ラルジュング、コーバングからトゥクチェをカバーし、北はマルファ、ジャン、ジョムソム、



▲マルファの家並



そしてもっと遠くのカグベニ、タンベ、チュクサン、サムマル迄の広範囲の地域に電気を供給する計画のようなので、アシュラムの言う地域単位の小水力発電とは訳が違うようだ。この裏には政府のボテ圏に対する配慮と、タカリの政治的な動きがあるように感じられる。

カリガンダキ対岸のボテの病院を過ぎ、荒れ果てた原っぱを通り過ぎるころ、三本一緒になった高い電柱が現れた。電線は右のカリガンダキを越えた彼方から引かれ、三本の電柱からは、北と南に分けられて送電線が張られていた。この右からカリガンダキを越えてきた電線の一番奥まったところに、タック・コーラの発電所は建築されるのだろう。

間もなくマルファの政府農場を通り過ぎる。八、九月頃にはリングや桃がたわわになり、畑にはひとかかえもあるキャベツが採れる。アメリカのピース・コープの技術指導で出来た農場だが、数ある各国の農業指導で、ここぐらい成功しているところはない。時期になると日本の信州リングのように固いリングが、カトマンドゥのバザールにも出荷され市民の好評を拍している。

マルファの政府農場から少し行くと、林立したチョルテンが立ち並び、いよいよマルファの集落に入ってくる。石畳を敷きつめた細い街道の両側

には、石造りの二階建の家屋が立ち並び、それから民家は左側の山の斜面にも延びていて、この附近では一番大きな集落を形成している。マルファはパンチ・ガウン（五カ村）の中心的存在で仏教やボン教のゴンパも沢山ある。

マルファの氏族は、族外結婚した四つのグループに分かれているが、タカリの四つの氏族名（クラン・ネーム）と同じように、名前もよく似ている。前にも書いたようにその名前は、ヒラチャン、ジュハルチャン、パンナチャン、ラルチャン、の四つの氏族で、クラン・ネームのヒラ、ジュハル、パンナ、ラルはそれぞれ、ダイヤモンド、宝石、エメラルド、ルビーを意味している。この四族を総称してプウネル（Punel）といわれているが、これによって不本意ながら純粹のタカリの伝統とは切り離されているのである。婚姻は閉鎖的で、プウネル以外の氏族とは結婚しない。同じように、ティニーのティネル(Thinel)、ジャンのジャングダン(Syangdan)、その他もみな近親結婚である。

パンチ・ガウンの宗教は、仏教、ボン教(Bon-po)、ジャンクリ(Jhankism)で、最近ではタカリの真似をして少しばかりヒンドゥ教を取り入れている者もいる。ジョムソムの旧都ティニーの傍らの丘には仏教寺院のク・ツァブ・テル・ンガ・ゴンパ(Ku-tsap-ter-nga-Gompa)(Sku thab gter Lna)

▼マルファのゴンパ



があるが、これは八世紀頃、チベットから来た巡礼者が、サム・イエ(Sam-ye)・ゴンパの五つの宝物として聖者の遺骨を持ってきて建立したチベット仏教の寺である。パンチ・ガウン(五カ村)のパンチ(五)と、五つの宝物とどこか関係がありそうである。

ク・ツァブ・テル・ンガの寺の前には幾つかのチョルテンがあり、寺の規模もマルファの手前にあるツァロク・ゴンパ(rtse log dgan pa)のタカリの寺(現在はチベット人が管理)と同じようである。ここにある五宝とは、パドマサムバヴァの変化身の忿怒金剛、薬師仏の五体の小像であるといわれる。また、この寺には、パドマサムバヴァの靴の片方、茶色の石に刻まれた無上天像、文字のある頭骸骨、茶色の石で作られた五体の冠があるといわれているが、この寺は現在無住なので、五体遺物は近くの村で保管しているということである。また、この五宝は13世紀にドゥドルドルジェが発掘し、その弟子のウーゲン・バルツェンがサ

ムエ・ゴンパから持って来て、この寺を創建してこの五宝を安置したものと伝えられている。この寺はニンマ派で、その後ネパール・チベット戦争の時に焼け、西チベットから来たサンゲ・ザンポが復興して、この地にニンマ派を浸透させたとのことである。チュミクギャツァ(gnas chen mi g rgya rtse、ネパール名はムクチナート)の南方一日行程の所は、オェセルカン(hod gsal gans)といわれて有名だそう。それは、トゥムパ堂(grum pa lha khan)ともいわれていて、パドマサムバヴァの足跡と足の膝の跡である。特に、グル・パドマ(サムバヴァ)と区別がない身替り五宝(sku tshab gter lna)は加持されたものであり、この威光が輝くものを見、聞き、念じ、触れる衆生は、解脱を得る最高におかれる加持が非常に大きいとされている。

マルファのそばのチェロクにもツァロク・ゴンパ(rtse log dgon pa)という興味ある仏教寺院がある。ティニーとジョムソムにはボン教の寺もある。

インドラ・マン・シェルチャンは、パンチ・ガウンの種族はタマンとよく似ている種族だといっているが、もしそうだとするとタマン・ガッレイ(タマンとマガールの混血)かも知れない。タマン族には、マンのつく名前が多い。

時計を見ると11時近かったので、少し早い村の中ほどにある顔見知りのバッチィに寄った。10年も前からマルファを通るときにはかならず立ち寄りバッチィである。レストランの奥の二階は宿泊出来るようになっている。裏に廻ると、ここに泊まっているのか、ヒッピーのカップルが洗濯をしていた。このバッチィも何時の間にかバーバ・レストランと名をつけて、英語のメニューが置いてあった。私は馬子の少年にチャパティとミルク・ティーをご馳走し、私は持参の弁当を食べた。

1時間以上もここで休憩し、再び馬上の人となった。村の外れにある大木をくり抜いた灌漑用水路は、今は真黒な水が流れていた。いつもは綺麗な水が流れているのにどうして濁っているのだろう。水路のそばにネパール人の電気技師が、立てられたばかりの電柱に電線を架設していた。そしてこの電線はシャンに向かって延びていた。マルファ

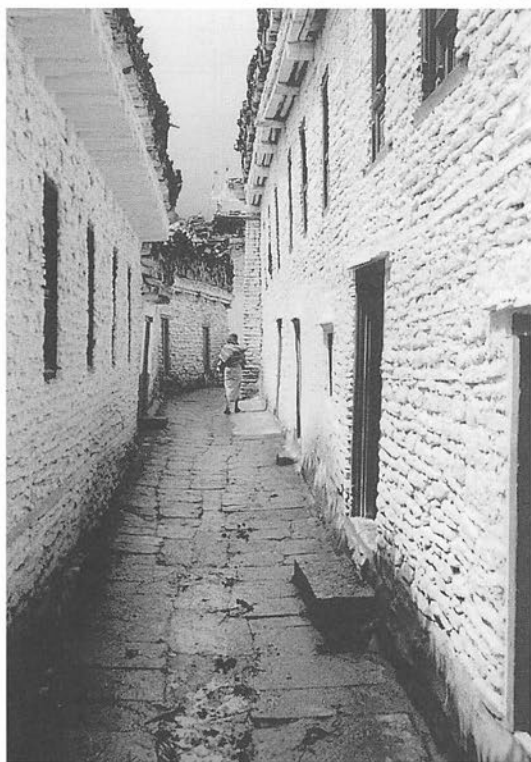
の集落を後にし、雪を頂いたダンプッシュ・ピークから流れ落ちるパング・キュー・コーラを渡渉すると広い扇状地になり、カリガンダキの河床に落ちていた。このパング・キュー・コーラのキューは前にもカイ・キュー・コーラのところで述べたように、キューはタカリ語で、チベット語のチュウ（水又は河の意）なので、この谷の名前も、パング・キューだけにした方が正しいだろう。パング・キューも真黒い濁流であった。扇状地を暫く進むと、カリガンダキにチベット様式の木橋が掛かっており、その橋を渡って行けば、ジョムソムの旧都ティニーに通じている。橋を渡らず左の河岸段丘に登ると一面の畑で、畑はシャンの村に続いていた。シャンの村は前にも一寸触れたように種族はシャングダンと言われ、この上の河岸段丘上に住んでいる。しかし下の道路沿いの家は、ほとんど隊商宿やバッチィでシャングダンではないようだ。

私は未だ一回も上の河岸段丘上のシャンの集落に足を入れたことがないので判らないが、集落の奥の段丘上にはゴンパがあり、チョルテンの姿も下より望見することが出来る。このシャンの道路

に沿っても電柱が並んでいたが、電柱はなおも奥のジョムソムに続いていた。畑には一面に大麦が植えられ、穂がつき始めたばかりであった。

シャンの村の下を通り、コーラ（河）を一本渡って少し登ると、カリガンダキの河岸段丘上にジョムソムの飛行場が現れてくる。この飛行場はカトマンドゥよりは週二便だが、ポカラからは毎日便がある。飛行場の前には、新しいホテルが数軒あり、その先には政府の出先機関や民間の施設機関、軍隊、警察などがあり、銀行の出張所もある。これら建物の立ち並ぶ先、カリガンダキに架けられた木橋を渡ると、その先にジョムソムの村があり、集落にはほとんどタカリが住んでいる。

タック・コーラの一番北にあるジョムソム(Jomsom)はジョムソムバ(Jomsomba)あるいはジュムサ(Jhumsa)と呼ばれており、ジョムサ(Jom-sa)ともいわれている。チベット名はゾンサ(rdzon gsar)である。ジョムソムは元々新しい村で、ジョムソムの旧村はここより2～30分離れたところにある城廊都市ティニー(Thinl)で、今でも王城跡が残っている。タカリの先祖がジュムラ・シンジャより今のタック・コーラに流れついて、ティニー



▲マルファ石畳の家並



▲シャンの村の電柱と電線

小王国に赴き、その四つの氏族の前身であると言われている4人の男が、そこの王女をそれぞれめとり、その後裔がタカリだという説が残っている。あるいはまた、昔、ジュムラ・シンジャからハンシャ(Hansha)というラージャ（王）がタック・コーラにやって来て、ティニー王国の王女と結婚して住みついた。そして、その流れをくむロイヤル・ファミリーがタカリだという説もある。ジョムソムはタカリが村造りをした新村であるが、ジュムラ・シンジャより流れついたというタカリの主張が、ジョムソムの別名、ジュムサと何かつながりがあるようにも思えるが、これは私の感だけであってそれを証明する手だては何もない。

ネパール政府は、ジョムソムの北に広がるバーラ・ガウン（12カ村・カグ地区）やムスタン（ロー地区）を内政上きわめて重要な地域と判断して、

ここに強力な軍隊や大規模な警察のチェック・ポストを置き、無電局も設置している。数年前までは、ここが外国人立ち入り禁止のボーダー・ラインだったが、現在ではこの先のカグベニが国境線である。特にカンパ事件以来は、ここのチェック・ポストが一層厳しくなった。

私達ブリクティ遠征隊も、ここでチェックを受けることになるのだが、その模様については、さきに述べた通りである。

私はコックのニマに、ジョムソムの村のブーラ（爺さん）の家（ゴビンダ・ナルシン・バッターチャン）の裏庭に天幕を張るように言ったのに、私達の天幕は飛行場前のアラカ・ホテル裏の殺風景な場所に張られていた。私は天幕の中に、文句を言いながら入ることにした。リエゾン・オフィサーの命令なのだからやむを得まい。

ネパール人のエヴェレスト・サミッター

P23より続く

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
236	アン・ソナ S	1977	2001, 5, 25	24	1483	アメリカ		
237	アン・カミ S	1972	2001, 5, 25	29	1485	アメリカ		
238	ペンバ・チョティ S	1972	2001, 5, 25	29	1487	アメリカ		
239	プルバ・リダール・ボテ	1948	2001, 5, 25	53	1488	アメリカ		
240	ラクパ・ツェリン S-E	1973	2001, 5, 25	28	1489	アメリカ		
241	パサン・イラ S	1977	2001, 5, 25	24	1495	アメリカ		
242	ニマ・ヌル S	1980	2001, 5, 25	21	1498	オーストラリア	NR	

〔注1〕 シェルバ族であっても他国籍の下記は除外してある。

1953テンジン・ノルゲイ、1963,65 ナワン・ゴンブー、1965アン・カミ、1984ブー・ドルジェ II
1984ドルジェ・ラトー、1992ロブサン

〔注2〕 今回のまとめの基本資料は、下記の2点を照合することによって作成したが、一部照合不能のものがあつた。

この表の整理番号で例示すれば、060 080 098 099 110 135 141 156 158 179 については①の資料より一回分多く表に載せた。ご承知のようにシェルバは異なる名前を持っている者もあり、①の資料にはかなり別名を（ ）で表示してあり参考になった。同姓同名も数多くおり、これについては、①の資料ではそれらをA、B、Cで区分表示し、②の資料でI、II、IIIで区分表示されているが、この二つの資料のAがIに、BがIIに一致しているかどうか不明である。

〔参考資料〕

① 2002年カトマンズで発行された『NEPALESE CLIMBERS on Mount Everest』（顔写真付き）

② AdventureStats.com のEverest summits（1-1500）〔登頂年月日〕の後の番号である。

〔注3〕 無酸素登頂は、アン・リタとバブ・チリのそれぞれ10回二人とも全て無酸素。010、011 2回、035、041、097 3回、111 2回、112 などが達成している。

地域ニュース

《中国》

中国、チベット自治区入域全面禁止

チベット自治区政府旅遊局は、4月24日、共産党自治区委員会の指示により、4月25日から中国人及び外国人のチベット観光を全面的に中止すると通知した。

この通知は、旅行各社宛てに出されたもので、既に訪問を予定している団体の代金は全て返金するとしている。

また、同通知では4月27日からは、カトマンズ、ザンムーからの観光団体の許可も全て取り消すとしている。

同通知書には、この措置の根拠が何であるのか触れていないが、中国全土に広がりを見せているSARS（重症急性呼吸器症候群）の予防措置と思われる。（資料提供：ティ・エッチ・アイ）

尚、HAJ事務局では、この件に関して4月25日、北京の中国登山協会に真偽について照会したところ、同日夜回答があり、25日北京に到着し翌日チベット入りを予定していた日本の団体が、許可を取り消され帰国した、との情報がもたらされ、この措置が当分続くことが確認された。

故・山田昇「15年祭」と 「白き山河の旅人」出版記念会開かれる

八千メートル峰14座登頂、五大陸最高峰冬期登頂を目指しながら、1989年2月、北米最高峰マッキンリーで小松幸三、三枝照雄と遭難死亡した元日本ヒマラヤ協会常務理事、山田昇の「15年祭」と故人の遺稿・追悼集「白き山河の旅人」の出版記念会が、4月20日（日）地元沼田市で行われた。

「15年祭」は午後2時から自宅で、榛名神社の宮司によってしめやかに執り行なわれ、親族代表、山岳関係を代表して、星野光群馬岳連会長、大塚博美日本山岳会会長、遠藤登日本ヒマラヤ協会前会長らが故人の写真が飾られた霊前に玉串を奉てんし、兄の山田豊氏から謝辞があり終了した。

「出版記念会」は場所を沼田市のホテルに移し、午後3時から八木原罔明氏（山田昇ヒマラヤ資料館々長）の司会により開会した。冒頭編集を担当した山森欣一から出版の経緯が紹介され、次いで、星野光、大塚博美、田中成幸（1978年群馬岳連ダウラギリI南東稜初登攀隊隊長）各氏から挨拶があった。さらに故人の沼田高校山岳部の後輩である歌手のいしざかびんが氏が、「白き氷河の果てに」、「山岳昇歌」をギターの弾き語りで歌い故人を偲んだ。献杯発声は故人が参加した1981年HAJカンチェンジュンガ縦走計画の中核的存在で、現在長野県原村村長の清水澄氏。片岡邦夫（カンチ）、植松秀之（ランタン・リ）、鯉坂青青（三国チョモランマ）、飛田和夫（K2）宮崎勉（群馬岳連）各氏が思い出を語った。当日の参会者は地元や関東のみならず高知、東北から約250名。

トピックス



▲故山田昇15年祭で挨拶する兄の豊さん



▲出版記念会には沼田高校山岳部の後輩の姿も

Books

白き山河の旅人
— 山田昇遺稿・追悼集 —

今や伝説となったヒマラヤニスト山田昇氏の遺稿・追悼集。これまでに山田昇氏関係の本は多数出版されているが、意外にも山田昇としての遺稿・追悼集としては15年の歳月を経てこの度出版された。

山田昇。8000m峰9座12回登頂。その中でもエベレスト3季（春、秋、冬）の登頂、北～南への縦断、無酸素1回。更にK2、カンチ、ローツェを含めた四大峰登頂、ハットトリック2回、冬期マナスルを2人でAP…、と現在でもその内容は素晴らしい。

私は山田昇氏との面識は無い。大学の春合宿の帰路に立ち寄った食堂のテレビに映し出されたチョモランマ頂上の映像。バックにはハウンドドックのAmbitiousの流れ、雲の上の存在に感心しながら見ていたのを記憶している。その時、チベットからネパールへの縦断を成し遂げたのが山田氏だと、随分後から知った。その後山田氏のエピソードはHAJの諸先輩から散々と聞かされていたし、山田昇記念館にも数回訪れた。それでも正直、重い内容が多い「遺稿・追悼集」を読むのは少々気が引けた、特に面識ない人のならば尚更だ。今回、本書の編集を手掛けた山森氏より書評を書くようにと手渡され、何気なく電車の中でページをめくってみる、読み始め、あっという間に本書にひきずり込まれていった。

遺稿では山田氏の豊富な経験に基づいた理論には感心させられる。「マナスル、冬期アルパインスタイル」の項や、「山岳雑誌に見られる似非な論評や、登山の風潮に惑わされてはならない」と、アルパイン・スタイルと極地法に対する考え方はそのどちらをも極めた結果であろう。

私は、山田氏が8000m峰14座登頂や5大陸最高峰冬期登頂などの記録を意識し始め、その結果マッキンリーでの遭難に繋がってしまった様に感じ、植村直己氏の遭難とどぶらせて見ていたのだが、

本書の「世界の屋根が呼んでいた」の項で山田氏は登山家や冒険家の評価が日本では低すぎる事を嘆き、野球やサッカーなどのスポーツの世界を例に挙げ「誰かが記録を達成するたびに、華々しく報道され、報道される事によって、子供たちが憧れ、さらにそのスポーツの底辺が広がるという相乗効果を生んできた。」「自分に作れる記録があったら、作ってやろう。そしてアピールしていこう」。心に決めた。という部分を読み、山田氏はもっと大きなビジョンを描きこの記録を目指していた事を悟った。

更に「心配なヒマラヤ破壊」という項でヒマラヤの環境破壊を危惧し、あらためてヒマラヤとそこに暮らす人々を心から愛していたのだと実感させられた。

多くの方々の追悼文を読むと、山田昇という人物とは単に著名な登山家、あるいはただの山仲間として付き合っていたのでは無く、「山田昇」の人間性、人柄に皆が惚れ込み、そして皆に多に愛されていた事を文面から読み取る事が出来た。

本書を読み終え、一度でもヒマラヤ、いや酒を飲む機会があったらと悔やまれる。

（記：野沢井 歩）

B5版、471P、2003年3月6日発行

送料込み 3,500円

申し込みは、郵便番号、住所、氏名、電話番号を記入して、FAX (027-233-2690) で八木原 囃明へ

■財政支援 〔5万円〕中川 裕

〔1万円〕長谷川和雄

東京集会のお知らせ

日時 5月26日（月）午後7時～

内容 NG付録エヴェレスト地図を話題に

場所 HAJルーム（地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分）
又は、JR大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分）

ネパール人のエヴェレスト・サミッター

（注）氏名の後のSはシェルパの略、ルート無記名は南東稜。

〔2003. 4. 22 山森欣一調べ〕

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
1	プー・ドルジェ S		1965, 5, 29		24	インド		1969, 10, 18
2	チョタレ S		1970, 5, 12		28	J A C		1997
3	サンブー・タマン	1955	1973, 5, 5 ②1985, 8, 28	17 30	31 197	イタリア スペイン	N R	
4	ラクパ・テンジン	1940	1973, 5, 5	33	32	イタリア		
5	ソナム・ギャルチェン S	1943	1973, 5, 7	30	36	イタリア		
6	アン・ツェリン S	1949	1975, 5, 16	26	40	日本女子登攀		
7	バルテンバ S	1949, 2, 15	1975, 9, 26 ②1979, 10, 1 ③1985, 4, 21	26 30 36	53 93 177	イギリス スウェーデン ノルウエイ	S W F	
8	ベンバ・ノルブ S	1949	1977, 9, 15	28	59	韓国		
9	アン・プー S	1950	1978, 5, 3 ②1979, 5, 15	28 29	63 89	ドイツ ユーゴスラビア	W R	1979, 5, 16
10	ミンマ・ヌル S		1978, 10, 16		80	ドイツ		
11	アン・ドルジェ S		1978, 10, 16 ②1984, 5, 23		81 167	ドイツ インド		1984, 10, 24
12	アン・カミ S	1948	1978, 10, 16 ②1990, 4, 23	30 42	82 287	ドイツ ネパール陸軍		
13	ラクパ・ギャルゼン S		1979, 10, 1		94	スウェーデン		
14	スンダレ S 南東稜→北稜縦走	1956	1979, 10, 2 ②1981, 10, 21 ③1982, 10, 5 ④1985, 4, 29 ⑤1988, 5, 10	23 25 26 29 32	97 114 130 186 224	スウェーデン アメリカ カナダ ノルウエイ 日中ネ合同	S P	1998, 10, 17
15	アン・プルバ S - A	1957	1979, 10, 2	22	101	スウェーデン		
16	アン・ザンブー S - A	1961	1979, 10, 2	18	102	スウェーデン		
17	バサン・テンバ S	1950	1980, 5, 14	30	109	スペイン		
18	ヨン・テンジン S	1953	1981, 10, 24	28	116	アメリカ		
19	ラクパ・ドルジェ S - A	1955	1982, 10, 5 ②1991, 5, 15	27 36	131 370	カナダ アメリカ	N R	
20	ベマ・ドルジェ S	1958	1982, 10, 7 ②1985, 4, 29 ③1988, 9, 26	24 27 30	133 188 239	カナダ ノルウエイ 韓国	S P	
21	ラクパ・ツェリン S - A	1952	1982, 10, 7 ②1997, 5, 23 ③2000, 5, 21	30 45 48	134 892 1253	カナダ カナダ カナダ		

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
22	アン・リタ S 冬期無酸素登頂	1943	1983, 5, 7 ②1984,10,15 ③1985, 4,29 ④1987,10,22 ⑤1988,10,14 ⑥1990, 4,23 ⑦1992, 5,15 ⑧1993, 5,16 ⑨1995, 5,13 ⑩1996, 5,23	40 41 42 44 45 47 49 50 52 53	139 174 187 211 258 286 451 548 687 825	ドイツ/アメリカ スロヴァキア ノルウェイ 韓国 スペイン ネパール陸軍 チリー スペイン ロシア 国際隊	S P N R	
23	ラクパ・ドルジェ S-B	1956	1983, 5,14	27	143	ドイツ/アメリカ		
24	ナワン・ヨンデン S	1953	1983,12,16	30	158	カモシカ同人		
25	アン・ラクパ S-A		1985, 4,21		178	ノルウェイ		1988,12,23
26	ダワ・ヌル（ノルブ） S	1957	1985, 4,21	28	181	ノルウェイ		1986,10,17
27	チャワン・リンジ S	1949	1985, 4,29	36	189	ノルウェイ		
28	アン・プルバ S-B 南東稜→北稜縦走		1985, 4,30 ②1988, 5, 5 ③1993, 5,16		192 215 543	ノルウェイ 日中ネ合同 スペイン		
29	アン・カルマ S	1958	1985, 8,28	27	196	スペイン		
30	ナラヤン・シュレスタ	1960	1985, 8,28	25	198	スペイン		
31	アン・ラクパ・ヌル S 1988年北稜→南東稜縦走	1963	1988, 5, 5 ②1989, 5,24	25 26	213 271	日中ネ合同 アメリカ		
32	ラクパ・ソナ S		1988, 5, 5		223	日中ネ合同	N R	
33	バダム・バハドゥル・タマン		1988, 5,10		225	日中ネ合同		
34	パサン・ツェリン S-A	1963	1988, 9,26 ②1994, 5,13 ③1996, 5,11	25 31 33	235 641 778	フランス 愛知学院大学 福岡市	S P N R	
35	ソナム・ツェリン S		1988, 9,26 ②1989, 5,10 ③1992, 5,12 ④1992,10, 4 ⑤1993, 4,22		236 265 407 473 491	フランス マケドニア ニュージーランド ドイツ ネパール女性		1993, 4,23
36	アジワ S		1988, 9,26 ②1989,10, 5		237 264	フランス マケドニア		1989, 9,25
37	パサン・ギャルゼン S		1988, 9,29		246	アメリカ		
38	ダワ・ツェリン S-A		1988,10, 2		249	アメリカ		
39	ニマ・タシ S		1988,10, 2 ②1989,10, 5 ③1997, 5,25 ④1999, 5,18		250 313 917 1115	アメリカ アメリカ アメリカ／英 イギリス／米		
40	プー・ドルジェ S-B		1988,10, 2		251	アメリカ		

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
40	プー・ドルジェ S-B		②1989, 5,16		268	アメリカ		1989, 5,16
41	ニマ・リタ S		1988,10,14 ②1989,10,23 ③1995, 5,15 ④1998, 5,20		259 284 710 980	スペイン 韓国 アメリカ アメリカ/環境	WR	1999,Thame
42	ラクパ・ソナム S		1988,10,13		254A	フランス		1988,10,13
43	パサン・テンバ S	1947,10,9	1988,10,13	41	254B	フランス		1988,10,13
44	アン・ダヌー S	1959	1989, 5,16	30	269	アメリカ/メキシコ		
45	ソナム・デンドゥ S		1989, 5,24 ②1990,10, 5 ③1991, 5, 8 ④1993, 5,10 ⑤1994, 5, 9		272 334 359 513 626	アメリカ フランス ネパールシェルパ 韓国 アメリカ/清掃		
46	チュルデン・ドルジェ S		1989,10,13		280	カトマンズクラブ		
47	ツェリン・チュンビ S		1989,10,13		279	カトマンズクラブ		
48	ヌル・ジャブー S		1989,10,23		285	韓国	WR	
49	パサン・ヌルプ S	1954	1990, 4,23	36	288	ネパール陸軍		
50	トプ・バハドール・ハトリ		1990, 4,23		289	ネパール		
51	アン・ジャブー S-B	1961	1990, 5,10	29	312	アメリカ		
52	ダワ・ヌル S-B		1990, 5,10 ②1993, 5,10		317 507	アメリカ アメリカ		
53	アパ S	1960	1990, 5,10 ②1991, 5, 8 ③1992, 5,12 ④1992,10, 9 ⑤1993, 5,10 ⑥1994,10,10 ⑦1995, 5,15 ⑧1997, 4,26 ⑨1998, 5,20 ⑩1999, 5,26 ⑪2000, 5,24	30 31 32 32 33 34 35 37 38 39 40	322 360 410 478 505 659 708 847 978 1133 1279	ニュージーランド ネパールシェルパ 国際隊 国際隊 アメリカ 宮原巍 アメリカ インドネシア アメリカ/環境 アメリカ 環境	N R	
54	アン・テンバ S-A	1959	1990,10, 5	31	331	アメリカ		
55	ペンバ・ドルジェ S-A (ナワン・チリ S)		1990,10, 5 ②1993, 4,22 ③2000, 5,17		333 493 1195	フランス ネパール女性 国際隊	N R	
56	ダワ・サンゲ S		1990,10, 6		341	日本韓国合同		1999,10,11
57	ペンバ・ドルジェ S-B	1964	1990,10, 6	26	342	日本韓国合同		
58	バブ・チリ S	1964	1990,10, 6 ②1991, 5,22 ③1993,10,10	26 27 29	343 381 608	フランス イギリス イギリス	N F N F	

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ル ー ト	死亡年月日
58	バブ・チリ S	1964	④1995, 5,14 ⑤1995, 5,26 ⑥1996, 5,23 ⑦1997, 5,21 ⑧1999, 5, 6 ⑨1999, 5,26 ⑩2000, 5,21	31 31 32 33 35 35 36	704 733 812 873 1073 1124 1250	イギリス イギリス フランス 国際隊 国際隊 国際隊 スピード	N R	2001, 5,26
59	ラクパ・リタ S-A	1966	1990,10, 7 ②1992, 5,15 ③1994, 5,13 ④1997, 5,25	34	347 439 643 918	スロヴェニア アメリカ アメリカ アメリカ		
60	フィンジョー S-A		1990,10, 7 ②1993, 5,16 ③1995, 5,16		350 557 711	アメリカ アメリカ アメリカ	N R	2001,
61	アン・プルバ S-C		1990,10, 7		356	フランス	N R	
62	ドルジェ S-A (ニマ・ドルジェ S)	1958	1990,10, 7 ②1991, 5,27 ③1993, 5,16 ④1994, 5, 8 ⑤1995, 5,11 ⑥1996, 5,13	32 33 35 36 37 38	357 386 566 617 672 783	フランス 貫田/二上 ネパール/インド 愛知学院大学 S P 日本大学 福岡市	N R N E R N R	
63	アン・テンバ S-B		1991, 5, 8		358	ネパールシエルパ		
64	ダワ S-A (アングワ)	1964	1991, 5,15 ②1992, 5,12 ③1993, 5,10	27 28 29	371 411 511	アメリカ アメリカ 韓国	N F	
65	ミンマ・ノルブ S		1991, 5,15		373	スエーデン		
66	ギャルブ S		1991, 5,15 ②1993,10, 6 ③1996, 5,18 ④1997, 5,23		373 581 801 893	スエーデン フランス ノルウェイ カナダ	N R N R	
67	チュルデン・テンバ S	1963	1991, 5,22 ②1993, 5,10	28	382 507	イギリス アルパイン	N R	
68	フィンジョー(ノルブ) S	1958	1991, 5,27 ②1998, 5,19 ③2001, 5,23	33 40 43	387 958 1358	貫田/二上 インド フランス	N R N R	
69	チュルディン S (アン・ドルジェ S)	1964	1992, 5,12 ②1993, 5,10 ③1994, 5, 9 ④1996, 5,10 ⑤1997, 5,23 ⑥2000, 5,21	28 29 30 32 33 36	408 536 627 768 883 1254	ニュージーランド ホール 清掃 国際隊 コンサルタント チーム		

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
69	チュルディン S	1964	⑦2000,10, 7	36	1314	スロヴェア		
70	タシ・ツェリン	1969	1992, 5,12 ②1995,10,14 ③1996, 5,10 ④1997, 5,23 ⑤1998, 5,20 ⑥1998, 5,27 ⑦1998,10,17 ⑧2000, 5,22	23 26 27 28 29 29 29 31	409 744 761 894 993 1042 1052 1262	ニュージーランド 韓国 アメリカ 清掃 アメリカ アメリカ チャレンジ ガイド	N R	
71	ダワ・タシ S	1964	1992, 5,12 ②1993, 4,22 ③1993,10, 6 ④1994, 5,13 ⑤1996, 5,17 ⑥1998, 5,18	28 29 29 30 32 34	415 488 582 640 796 933	オランダ ネパール女性 フランス 愛知学院大学 ノルウェイ インド	S P N R N R	
72	ニマ・テンバ S－A	1950	1992, 5,12	42	416	オランダ		
73	ダワ・テンバ S	1966	1992, 5,12 ②1994,10,11 ③1997, 5,23 ④1999, 5,26 ⑤2000, 5,20	26 28 31 33 34	424 665 904 1127 1248	アメリカ イギリス マレーシア 国際隊 デンマーク	S P	
74	ギャルゼン S－A (アン・ギャルジェン)	1952	1992, 5,12 ②1998, 5,20	40 46	425 981	アメリカ 環境		2000,EVBC
75	マン・バハドール・タマン	1963	1992, 5,15 ②1994, 5,13 ③1999, 5,26	29 31 36	443 645 1141	アメリカ アメリカ G e o r	N R	
76	ドルジェ S－B	1964	1992, 5,15 ②1993, 5,10 ③1993,10, 7 ④1994, 5,13 ⑤1994,10,11 ⑥1997, 5,27 ⑦1999, 5, 5 ⑧2000, 5,17	28 29 29 30 30 33 35 36	444 525 593 647 664 926 1057 1203	アメリカ ネパール/インド イギリス アメリカ イギリス 国際隊 アメリカ アメリカ	N R	
77	ラクパ・ヌル S		1992, 5,15 ②1992, 9,28 ③1993, 4,22 ④1993,10, 9 ⑤1994, 5, 8 ⑥1995, 5,11		448 462 492 606 620 671	スペイン イタリア ネパール女性 国際隊 愛知学院大学 日本大学	S P N R S P N E R	1995, 9,10
78	ペンバ・ヌル S		1992, 5,15		449	スペイン	S P	

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
78	ペンバ・ヌル S		②1993, 4,22		490	ネパール女性		
79	アン・プーリ S		1992, 5,15		452	チリ		
80	カジ S 20時間24分で登頂		1992,10, 9 ②1993, 5,16 ③1995, 5,14 ④1996, 9,26 ⑤1998,10,17		479 554 699 837 1051	国際隊 韓国 アメリカ クララ スペイン	NR NR	
81	ンガティ S		1993, 4,13		487	韓国	NR~SER	3,23An
82	パサン・ラム S P		1993, 4,22		489	ネパール女性		1993, 4,23
83	アン・ツェリン S		1993, 5,10		512	韓国		
84	リンジン S (アンリンジ)		1993, 5,10		514	韓国		
85	オンダ・ツェリン S	1969	1993, 5,10 ②1993,10, 7 ③1995, 5,14	24 24 26	522 584 696	インド女性 スペイン アメリカ	S P NR	
86	ンガ・テンバ S - B	1957	1993, 5,10 ②1993,10, 7 ③1994, 5, 8 ④1996, 5,17 ⑤1997, 5,23 ⑥1998, 5,18 ⑦1999, 5, 5 ⑧2000, 5,18	36 36 37 39 40 41 42 43	523 591 619 793 903 940 1059 1227	インド女性 イギリス 愛知学院大学 立正大学 マレーシア 昭和山岳会 アメリカ イギリス	S P NR NR NR	
87	ペンバ・テンバ S		1993, 5,10		529	アメリカ		
88	モティラル・グルン	1950	1993, 5,10	43	530	アメリカ		
89	アン・チュンビ S	1950	1993, 5,10	43	535	ニュージーランド		
90	ヌルブ S (ヌル)	1969	1993, 5,10 ②1993,10, 9 ③1994, 5, 9 ④1996, 5,10 ⑤1998, 5,27 ⑥2000, 5,17 ⑦2001, 5,24	24 24 25 27 29 31 32	537 596 635 769 1044 1220 1469	ニュージーランド フランス ニュージーランド ニュージーランド アメリカ 法政大学 国際隊	NR	
91	ジャンプ S - A		1993, 5,16		547	スペイン		
92	ンガ・テンバ S - A	1951	1993, 5,16 ②1993,10, 9 ③2001, 5,23	42 42 50	569 602 1401	インド女性 イギリス インド陸軍		
93	ドルジェ S - D	1958	1993, 5,16	35	558	アメリカ		
94	ドルガ・タマン	1962	1993, 5,16	31	559	アメリカ		
95	テンジン S	1964	1993, 5,16 ②1993,10,9 ③1996, 5,10	29 29 32	567 601 760	インド女性 イギリス アメリカ		

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
95	テンジン S	1964	④1997, 5,23 ⑤1999, 5,12 ⑥2000, 5,18 ⑦2001, 5,24	33 35 36 37	899 1081 1219 1465	国際隊 国際隊 法政大学 国際隊	N R	
96	ロブサン・ジャブー S		1993, 5,16 ②1994, 5, 9 ③1995, 5, 7 ④1996, 5,10		568 622 666 758	インド女性 アメリカ ニュージーランド アメリカ		1996, 9,21
97	アン・パサン S－A	1965	1993, 5,17 ②1997, 5,25 ③2001, 5,25	28 32 36	573 914 1484	イギリス女性 アメリカ アメリカ		
98	カミ・ツェリン S (アン・ツェリン S)	1962	1993, 5,17 ②1997, 5,23 ③2000, 5,22 ④2001, 5,19	31 35 38 39	574 895 1264 1324	イギリス カナダ アメリカ アメリカ	N R	
99	パサン・ヌル S (パヌル)	1967	1993,10, 6 ②1996,10,11 ③1998, 5,27	26 29 31	577 844 1049	韓国 韓国 アメリカ	N R N R	
100	パサン・カミ S－A		1993,10, 7 ②1995, 5,11 ③1996, 5,11 ④1998, 5,18		592 670 779 939	イギリス 日本大学 福岡市 昭和山岳会	N E R N R N R	
101	ニマ・ゴンブー S	1969	1993,10, 9 ②1994, 5, 9 ③1996, 5,10 ④1998, 5,25 ⑤1999, 5,12 ⑥2000, 5,24 ⑦2001, 5,23	24 25 27 29 30 31 32	597 634 771 1024 1082 1294 1405	フランス ニュージーランド 台湾 国際隊 国際隊 国際隊 アメリカ		
102	ラクパ・ゲル S	1967	1993,10, 9 ②1995, 5,24 ③1996, 5,19 ④1997, 5,23 ⑤1998, 5,24 ⑥1999, 5,13 ⑦2000, 5,17 ⑧2001, 5,24	26 28 29 30 31 32 33 34	603 728 805 897 1013 1099 1206 1454	イギリス イギリス イギリス イギリス 南アフリカ イギリス 国際隊 国際隊	N R N R	
103	アン・パサン S－B	1948	1993,10, 9	35	604	イギリス		
104	ダワ・ツェリン S－B		1994, 5, 8 ②1995, 5,11 ③1996, 5,17		618 669 797	愛知学院大学 日本大学 ノルウェー	S P N E R	

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
105	ニマ・テンバ		1994, 5,13		639	愛知学院大学	S P	
106	チャワン・ニマ S	1967	1994, 5,13 ②1994,10,10 ③1996, 5,13 ④1996, 9,26 ⑤1998, 5,18 ⑥1999, 5, 5 ⑦1999, 5,18 ⑧2000, 5,23 ⑨2001, 5,25	27 27 29 29 31 32 32 33 34	644 660 784 841 955 1055 1114 1274 1497	アメリカ 宮原巍 福岡市 クラーク 昭和山岳会 アメリカ アメリカ アメリカ オーストラリア	N R N R N R N R	
107	カミ・リタ S-A	1977	1994, 5,13 ②1997, 5,25 ③1998, 5,25 ④1999, 5,13 ⑤2000, 5,23	17 20 21 22 23	646 919 1018 1101 1276	アメリカ アメリカ/英 シンガポール イギリス アメリカ		
108	ダワ・ツェリン S-C	1967	1994,10,10 ②1996, 5,13 ③1996, 9,26 ④1998, 5,18 ⑤1999, 5,13	27 29 29 31 32	661 785 840 956 1107	宮原巍 福岡市 クララ 昭和山岳会 野口健	N R N R N R	
109	ミンマ・ツェリン S-B	1970	1995, 5,12 ②1996, 5,10 ③1997, 5,23 ④1998, 5,19 ⑤1999, 5, 5 ⑥2000, 5,17 ⑦2001, 5,24	25 26 27 28 29 30 31	680 772 884 965 1067 1211 1455	台湾 台湾高銘和 国際隊 朝日 スエーデン 法政大学 国際隊	N R N R N R	
110	ラクバ・ドルジェ S-C	1967	1995, 5,12 ②1996, 5,23	28 29	681 819	台湾 国際隊	N R	
111	テンジン・ヌル S	1960	1995, 5,12 ②1997, 5,25	35 37	682 920	台湾 アメリカ/英	N R	1997, 5,25
112	ウオンチュウ S	1968	1995, 5,14	27	702	アメリカ	N R	
113	アリタ S	1959	1995, 5,15 ②1998, 5,20 ③2000, 5,24 ④2001, 5,24	36	709 984 1286 1462	アメリカ アメリカ環境 アメリカ環境 国際隊		
114	ジャンプー S-B	1973	1995, 5,16 ②1996, 5,23 ③1997, 5,23	22 23 24	716 821 887	アメリカ 国際隊 アメリカ	N R	
115	ムサル・カジ・タマン		1995, 5,16		718	アメリカ	N R	2000,
116	ツェリン・ドルジェ S A	1970	1995, 5,24	25	729	国際隊	N R	

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
116	ツェリン・ドルジェ S A	1970	②1999, 5,13 ③2001, 5,24	29 31	1103 1467	国際隊 国際隊		
117	ジャンプー S (ラマ・ジャンプー S	1970	1995, 5,26 ②1996, 5,25 ③1998, 5,24 ④1999, 5,29 ⑤2000, 5,16 ⑥2001, 5,24	25 26 28 29 30 31	732 835 1012 1172 1187 1453	国際隊 南アフリカ 南アフリカ 南アフリカ イギリス 国際隊	N R N R N R	
118	カルサン・ヌル S		1995, 5,26 ②1998, 5,25 ③1999, 5,27		735 1029 1148	国際隊 ニュージーランド 国際隊	N R N R N R	
119	ロブサン・テンバ S		1995, 5,26 ②1999, 5,27 ③2001, 5,23		736 1149 1369	国際隊 国際隊 国際隊	N R N R N R	
120	ザンブー S - C		19951014		741	韓国	N R	
121	キバ S	1962	19951014 ②1996,10,11 ③1997, 5,27	33 34 35	747 845 925	韓国 韓国 国際隊	SW F	
122	アン・ダワ・タマン		19951014 ②1996,10,11 ③1997, 5, 7		748 846 859	韓国 韓国 韓国	SW F N R	2000,Kance
123	ナワン・ドルジェ S	1965	1996, 5,10 ②2000, 5,19	31 35	759 1236	アメリカ 法政大学	N R	
124	アン・ギャルツェン S B		1996, 5,11 ②1996, 9,26 ③1998, 5,18		780 839 941	福岡市 クララ 昭和山岳会	N R N R N R	
125	ペンバ・ツェリン S - A		1996, 5,17		792	立正大学	N R	
126	ミンマ・ドルジェ S		1996, 5,19		804	国際隊	N R	
127	プアー・ギャルゼン S A	1966	1996, 5,19	30	806	国際隊	N R	
128	ダワ S - B	1963	1996, 5,23 ②1997, 5,21 ③1999, 5, 6 ④1999, 5,26 ⑤2000, 5,21	33 34 36 36 37	813 874 1074 1125 1251	フランス イギリス スウェーデン スウェーデン バプ・チリ		
129	ドルジェ S - C	1965	1996, 5,23 ②1997, 5,23 ③1998, 5,25 ④1999, 5, 5 ⑤2000, 5,17 ⑥2001, 5,24	31 32 33 34 35 36	820 888 1019 1071 1205 1464	I M A X アメリカ シンガポール カナダ 国際隊 国際隊		
130	ムクト・ラクパ S	1972	1996, 5,23	26	822	I M A X		

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
131	チレン S	1968	1996, 5,23 ②2001, 5,23	28 33	823 1382	I M A X スペイン	N R	
132	ペンバ・テンジ S		1996, 5,25 ②1997, 5,25 ③1999, 5,29		833 915 1173	南アフリカ アメリカ 南アフリカ	N R	
133	アン・ドルジェ S - C		1996, 5,25		834	南アフリカ		
134	ギャルゼン S - A	1962	1996, 9,26 ②1997, 5,23 ③1998, 5,20 ④1999, 5, 5	34 35 36 37	838 905 972 1058	インドネシア マレーシア 労山 アメリカ	N R N R	
135	ダワ・ヌル S - B		1997, 4,26 ②1998, 5,18 ③2001, 5,24		849 943 1452	インドネシア インド 国際隊	N R	
136	ダヌリ S		1997, 5,21		875	ネパール		
137	カメ S	1954	1997, 5,23 ②1999, 5, 5 ③2001, 5,23	43 45 47	889 1068 1413	アメリカ スエーデン チリ		
138	アン・プーリ・ギャルゼン S	1971	1997, 5,23	26	906	マレーシア		
139	フラ・ドルジェ S		1997, 5,23 ②1998, 5,25 ③1999, 5,27 ④2001, 5,23		907 1020 1154 1412	マレーシア シンガポール 国際隊 チリ女性	N R	
140	ワ・テンジ S	1965	1997, 5,23 ②1998, 5,20	32 33	908 989	イギリス イラン		
141	ミンマ・チリ S - B		1997, 5,25 ②1999, 5,26 ③2000, 5,23		916 1131 1275	アメリカ メキシコ アメリカ		
142	ダ・ソナ S	1967	1997, 5,27 ②1998, 5,27 ③1999, 5,18	30 31 32	923 1046 1116	国際隊 アメリカ イギリス/米		
143	タムティン S	1974	1998, 5,18 ②2000, 5,16	24 25	935 1180	インド スペイン	N R	
144	ナワン・テンジン S - A		1998, 5,18 ②2000, 5,20 ③2001, 5,24		936 1241 1470	インド 東北海外 国際隊	N R N R	
145	アン・ミンマ S - A		1998, 5,18 ②2000, 5,18		947 1223	労山 ネパール	N R	
146	ニマ・ギャルゼン S	1976	1998, 5,19 ②1999, 5,13 ③2000, 5,17	22 23 24	959 1100 1216	インド 国際隊 東北海外	N R N R	
147	ツェリン・ドルジェ S B		1998, 5,19		966	朝日	N R	

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
147	ツェリン・ドルジェ S B		②2001, 5,22		1334	フランス	N R	
148	パサン・キタール S		1998, 5,19 ②1999, 5,13 ③2000, 5,19 ④2001, 5,24		967 1102 1235 1466	朝日 国際隊 法政大学 国際隊	N R	
149	ペンバ・ノルブ S - C	1965	1998, 5,20 ②2000, 5,24	33 35	979 1290	アメリカ アメリカ		
150	チュルディン・ヌル S	1966	1998, 5,20 ②2001, 5,25	32 35	982 1486	アメリカ アメリカ		
151	アン・パサン S - C	1967	1998, 5,20 ②2000, 5,18	31 32	983 1222	アメリカ ネパール女性		
152	チュルデム S		1998, 5,20		990	イラン		
153	ペンバ・リンジ S - B	1970	1998, 5,20 ②1999, 5,13 ③2001, 5,23	28 29 31	991 1104 1389	イラン 国際隊 国際隊		
154	ダワ S - B	1969	1998, 5,22 ②2001, 5,23	29 32	998 1436	労山 国際隊	N R	
155	ナワン・ブルバ S		1998, 5,25		1021	シンガポール		
156	ニマ・ドルジェ S - B	1966	1998, 5,25 ②1999, 5, 6 ③1999, 5,26 ④2001, 5,23	32 33 33 35	1026 1075 1126 1421	国際隊 スエーデン スエーデン アメリカ/加		
157	ニマ・オンチュー S	1969	1998, 5,25 ②1999, 5,13	29 30	1031 1108	イギリス 野口健	N R	
158	ダワ・ヌル S - C		1998, 5,25 ②2001, 5,19		1033 1322	アメリカ アメリカ	N R N R	
159	ラクパ・リタ S - B	1970	1998, 5,25 ②2001, 5,24	28 31	1034 1463	アメリカ 国際隊	N R	
160	パサン・ダワ S (パダワ)	1975	1998, 5,26 ②1999, 5,13	23 24	1038 1090	国際隊 イギリス		
161	チョンバ S (チョンバ・ヌル) S	1969	1999, 5, 5 ②2001, 5,23	30 32	1072 1414	カナダ チリ		
162	パサン・ツェリン S - B	1975	1998, 5,26 ②1999, 5, 5	23 24	1039 1064	国際隊 国際隊		
163	ラクパ・ツェリン S X		1998, 5,27 ②2000, 5,21		1045 1261	アメリカ 中国	N R	
164	プー・タシ S		1999, 5, 5 ②2000, 5,22 ③2001, 5,25		1056 1263 1494	イギリス アメリカ アメリカ		
165	アン・チリ S	1950	1999, 5, 5	49	1069	スエーデン		
166	チャワン・ドルジェ S	1975	1999, 5,12	26	1087	GEO		

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
166	チャワン・ドルジェ S	1975	②2000, 5,22	27	1272	アメリカ		
167	ナワン・テンジン S-B	1975	1999, 5,12	24	1088	GEO		
168	ダワ・ノルブ S-C	1970	1999, 5,13 ②2000, 5,17 ③2001, 5,24	29 30 31	1105 1204 1452	国際隊 国際隊 国際隊		
169	ナワン・ウオンチュウ S	1973	1999, 5,13 ②2000, 5,24 ③2001, 5,23	26 27 28	1109 1278 1362	野口健 国際隊 国際隊	NR	
170	クリシュナ・バハドル・タマン	1968	1999, 5,13	31	1110	野口健		
171	ラクパ・ヌル S-B	1972	1999, 5,26 ②2001, 5,19	27 29	1130 1323	メキシコ アメリカ	NR	
172	ベンバ S	1971	1999, 5,26	28	1132	メキシコ		
173	ナガ・ドルジェ S	1966	1999, 5,26	33	1134	アメリカ	NR	
174	サムドゥ S		1999, 5,26		1144	国際隊	NR	
175	ブルバ・タシ S	1971	1999, 5,27 ②2001, 5,23	28 30	1150 1371	国際隊 国際隊	NR NR	
176	ニマ・ヌル S		2000, 5,16		1181	スペイン		
177	ベンバ・ギャルゼン S A		2000, 5,16 ②2001, 5,23		1188 1391	イギリス 国際隊		
178	フィンゾー S-C	1972	2000, 5,17	28	1199	北海道	NR	
179	バルデン・ナムゲイ S	1973	2000, 5,17	27	1200	北海道	NR	
180	ベンバ・ギャルゼン S B	1971	2000, 5,17	29	1212	法政大学	NR	
181	ベンバ・ドルジェ S-C	1977	2000, 5,17 ②2001, 5,23	23 24	1217 1384	東北海外 カナダ	NR	
182	ラクパ S P(f)		2000, 5,17 ②2001, 5,23		1221 1426	ネパール女性 アメリカ	NR	
183	アン・ブルバ S-D	1958	2000, 5,18	42	1224	ネパール女性		
184	ベンバ・ドマ S P(f)	1970	2000, 5,19	30	1233	国際隊	NR	
185	ギャルブ・ラマ		2000, 5,19		1242	東北海外	NR	
186	パサン・カミ S-B		2000, 5,19		1243	東北海外	NR	
187	ダワ・チリ S	1966	2000, 5,20	34	1247	デンマーク	S P	
188	ニマ・ダワ S	1965	2000, 5,21	35	1249	デンマーク	S P	
189	ミンマ・テンジン S	1977	2000, 5,21	23	1255	カナダ		
190	ミンマ S	1977	2000, 5,21	23	1256	カナダ		
191	テンジン・ドルジェ S	1961	2000, 5,21	39	1257	カナダ		
192	ヌル・ウオンチュウ S	1976	2000, 5,21	24	1258	カナダ		
193	カルチェン・ダワ S	1965	2000, 5,21	35	1259	カナダ		
194	パサン・ツェリン S-C	1973	2000, 5,22	27	1270	ポーランド		
195	ラクパ・ツェリン S-C	1970	2000, 5,24 ②2001, 5,25	30 31	1280 1474	アメリカ環境 アメリカ		
196	カミ・リタ S	1977	2000, 5,24	23	1281	アメリカ		

番号	氏 名	生年月日	登頂年月日	年	番号	派遣母体名	ルート	死亡年月日
197	ペンバ・ツェリン S-B	1958	2000, 5, 24	42	1283	アメリカ		
198	ペンバ・チュティ S	1971	2000, 5, 24	29	1284	アメリカ		
199	パサン・タルケイ S	1971	2000, 5, 24	29	1287	アメリカ		
200	アン・ニマ S	1957	2000, 5, 24	43	1288	アメリカ		
201	ダ・ジャンプー S	1973	2000, 5, 24	27	1291	アメリカ		
202	ミンマ・ヌル S-B	1973	2000, 5, 26	27	1302	国際隊		
203	ラクパ・ギャルゼン S B		2000, 5, 27		1305	スペイン	N R	
204	パサン・テンジン S	1978	2000, 10, 7	22	1315	スロヴェニア		
205	ミンマ・ウォンゲル S	1977	2001, 5, 19	24	1321	アメリカ	N R	
206	タシ S	1979	2001, 5, 22	22	1329	G O G	N R	
207	イマン・グルン	1960	2001, 5, 22	41	1333	フランス	N R	
208	ペマ・ツェリン S		2001, 5, 22		1335	フランス	N R	
209	アン・チリ S (チリ)	1972	2001, 5, 22	29	1336	フランス	N R	
210	ミンマ・ヌル S	1976	2001, 5, 23	25	1356	フランス	N R	
211	アン・パサン S		2001, 5, 23		1357	フランス	N R	
212	ダワ・テンバ S		2001, 5, 23		1377	国際隊	N R	
213	テンバ・ツェリ S	1985	2001, 5, 23	16	1385	最年少登頂者	N R	
214	パンデン S	1971	2001, 5, 23	30	1390	国際隊		
215	ペンバ・リンジ S-B	1975	2001, 5, 23	26	1392	国際隊		
216	ティル・ビクラム・ ブダトキ	1965, 2, 22	2001, 5, 23	36	1399	インドネパール		
217	パサン・テンディ S	1976	2001, 5, 23	25	1400	インドネパール		
218	ラクパ・ヌル S-B	1979	2001, 5, 23	22	1402	インド陸軍		
219	ラクパ・テンバ S	1975	2001, 5, 23	26	1406	国際隊		
220	オンチュウ S	1969	2001, 5, 23	32	1415	チリ女性		
221	ニマ・タマン	1962	2001, 5, 23	39	1418	スペイン	N R	
222	パサン・ヌルブ S	1972	2001, 5, 23	29	1422	アメリカ		
223	ツェリン・パルデン・ボテ	1977	2001, 5, 23	24	1424	オーストラリア	N R	
224	チュクテン・ドルジェ	1968	2001, 5, 23	33	1430	スペイン		
225	ラクパ・ツェリン S-D	1975	2001, 5, 23	26	1431	スペイン	N R	
226	パサン・ツェリン S 4	1974	2001, 5, 23	27	1439	ベネゼエラ	N R	
227	ラクパ・チュンドウ	1977	2001, 5, 23	24	1440	ベネゼエラ	N R	
228	デンディ S	1973	2001, 5, 24	28	1445	インドネパール		
229	ミンマ・ツェリン S-C	1980	2001, 5, 24	21	1446	インドネパール		
230	パサン・ギェル S	1964	2001, 5, 24	37	1447	インドネパール		
231	パサン・リンジ S	1977	2001, 5, 24	24	1448	インドネパール		
232	ケリー S	1966	2001, 5, 24	35	1451	国際隊		
233	ドルジェ S-B	1953	2001, 5, 24	48	1456	国際隊		
234	ダワ S (ダワ・ヌル S)		2001, 5, 24		1468	国際隊		
235	ミンマ・ティンドク S		2001, 5, 24		1472	スペイン	N R	

以下 P 8 へ続く

H A J 販売書籍案内

書 名	価 格	送 料
1. 雪の住処35年の記録 (H A J 創立35周年記念誌)	3, 5 0 0 円	(4 5 0 円)
2. 天壇の山に挑む (ミニヤ・コンカ1991年隊)	2, 5 0 0 円	(3 1 0 円)
3. 秀麗ヌン峰を攀じる (1991年隊)	2, 0 0 0 円	(2 4 0 円)
4. 千人の悪魔の峰、マモストーン・カンリ (1984年隊)	1, 0 0 0 円	(2 4 0 円)
5. 烈風の彼方へ、冬期マナスル (1982年隊)	1, 5 0 0 円	(2 4 0 円)
6. ナンダ・カート (1981年隊事故報告)	2, 0 0 0 円	(3 4 0 円)
7. 聖地巡礼の旅 (サトパント1990年隊)	2, 0 0 0 円	(2 4 0 円)
8. “神の河” ブラマプトラの激流を下る (1990～1991年)	2, 5 0 0 円	(2 4 0 円)
9. 麗しき四川の夏 雪宝頂登頂 (1991年隊)	1, 0 0 0 円	(2 4 0 円)
10. 東部カラコルム	2, 0 0 0 円	(2 4 0 円)
11. ナマステ、サラスワティ (1992年隊)	2, 0 0 0 円	(3 1 0 円)
12. 崑崙の頂を踏む、青海・玉珠峰 (1993年隊)	1, 0 0 0 円	(2 4 0 円)
13. 天女の山 (玉虚峰) (1994年隊)	1, 0 0 0 円	(2 4 0 円)
14. ヒマラヤ、そして仲間達へ (ケダルナート・ドーム1980年隊)	1, 5 0 0 円	(3 1 0 円)
15. ルンボ・カンリ (1994年隊)	1, 5 0 0 円	(2 4 0 円)
16. 中国登山の手引き (第5版)	3, 0 0 0 円	(3 4 0 円)
17. ニンチン・カンサ (1997年隊)	1, 6 0 0 円	(2 1 0 円)

■ 寸 感 ■

新型肺炎 S A R S (重症急性呼吸器症候群) がヒマラヤの世界にも影響を及ぼしそうだ。昨年6月には、インドとパキスタンの交戦情報によって両国滞在の邦人に避難勧告が出された。それは結局何事も起こらずに済んだが、この新型肺炎は無気味である。もっとも両方共、人類がもたらしたものである。

いつものことではあるが、壮行会や祝賀会に出席すると、祝辞などを指名された結構年輩のそれなりの立場の方々が「突然の指名……」と話し始めることが多い。それなりの経験を積んでいるから指名されるのだから是非これは考えたい。

(山森)

事 務 局 日 誌 (4 月)

8 日 (火) 国際山岳年日本委員会／国連大学主催フォーラム (於、国連大学、山森、八木原)

9 日 (水) ヒマラヤ378号発送

14 日 (月) (社)日本山岳ガイド協会創立懇親会 (於、憲改会館、山森)

20 日 (日) 故山田昇15年祭号「白き山河の旅人」出版祝賀会 (於、沼田、遠藤、酒井、山森、尾形、岩崎、中川)

21 日 (月) 東京集会 (14名)

24 日 (木) キンヤン・キッシュ壮行会 (於、弥生会館、遠藤、山森、尾形、岩崎)

25 日 (金) チベット入域禁止令届く

ヒマラヤ No.379 (6 月号)

平成15年5月10日印刷 15年6月1日発行

発 行 人 山 森 欣 一

編 集 人 山 森 欣 一

発 行 所 日本ヒマラヤ協会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-2-7
萬栄ビル501号

電 話 03-3988-8474

郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」

遙かなる高みへ

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします

～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・中国・東南アジア・アフリカ・中南米～



◆格安航空券のご相談は◆

キャラバンデスク

(東京) ☎03(3237)8384 (直通)

(大阪) ☎06(6362)6060 (直通)

トレッキング・海外登山・シルクロード・秘境旅行のバイオニア ■本

社/〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-1

株式会社 西遊旅行

岩波書店アネックス5F

☎03(3237)1391(代) FAX 03(3237)1396

■大阪営業所/〒530-0026 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F

☎06(6367)1391(代) FAX 06(6367)1966

国土交通大臣登録旅行業第607号・日本旅行業協会正会員

西遊旅行ホームページ (<http://www.saiyu.co.jp>)

お問い合わせ・お申し込みフリーダイヤル
(通話料無料)をご利用下さい。

☎0120-811395

東京新聞の山岳書 東京新聞出版局

〒100-0011 東京都千代田区千代田2-1-4 日比谷中ビル6F

TEL: (03) 3595-4830 (代)

<http://www.tokyo-np.co.jp/tbook>

最新 クライミング技術

ジム・プレッチのフリークライミングからマル・ピッチ、アルパイン・ヒックマン・スミス、そしてロッククライマー・必読の書。30以上の技術を駆使するクライム・テクニックは、その意味や、選択基準までを含めて詳しく解説。実践的なクライミングのヒント、心構えなども細かくトビヤス。

菊地敏之 著
1600円

山小屋の主人の 炉端語

著名な山小屋の主人たちが宿泊の登山者に炉端で語る一人話の取って置きのお話。

工藤隆雄 著
1500円

すぐ役立つ山の花学

「飛騨高山の花博士」として知られる著者の、山の花見入門書。

小野木三郎 著
1456円

山の気象と救急法

山の気象避難を回避するための天気判断と、事故対策に役立つ救急法を平易に紹介。

飯田睦治郎 著
1359円

すぐ役立つ 記念日の山に登ろう

人それぞれの記念日の日付と標高が致する山はここに。

石井光造 著
1300円

山のメモ帳

「岳人」連載の「山の雑学ノート」から95篇の話題を取り上げた、山のフシクを深め、安全登山の指針となる一冊。

岳人編集部編
1400円

中高年の雪山入門

低山から夢のヒマラヤまで。トラバールを未然に防ぎ、白銀の大自然を満喫しながら、雪山歩きを楽しむ。

福島正明 著
1600円

花と歴史の50山

「花と歴史の山脈」の第2弾。花の山々を訪れた珠玉のツッセ一集。

田中澄江 著
1359円

女性ガイドの しなやか登山術

常識にとらわれず、自在に知恵を働かせれば山はもっと素敵になる。呼びかける、女性登山ガイドのワークな登山講座。

樋口英子 著
1500円

新・山靴の音

潤滑をむかえた著者が山への思いと、山の仲間との交遊を綴る。

芳野満彦 著
1262円

中高年登山 なんでも百科

「登山に年齢はない」と主張する著者が、より安全により快適に登山を楽しむよう、中高年登山の虎の巻。

福島正明 著
1500円

登山の 運動生理学百科

「どうしたら合理的で安全な登山ができるのか」を、ヒマラヤなど高所登山実感を踏まえて分かりやすくまとめた。

山本正嘉 著
2000円

山書散策

今まで数多く発行された山書、何を読んだらいいか、そんな時の指針として――「岳人」連載時から好評。

河村正之 著
1500円

※本体価格に消費税が加算されます。

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

●登山本店／〒169-0073 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03-3208-6601
●新宿西口店／〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03-3346-0301
●神田登山店／〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-6-1(タキビル2F) ☎03-3295-0622
●神田本館／〒101-0051 東京都千代田区神田小川町3-10 ☎03-3295-3215
●八王子店／〒192-0081 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426-46-5211
●大宮店／〒330-0802 埼玉県さいたま市宮町1-37 ☎048-641-5707
●高崎店／〒370-0831 群馬県高崎市新町5-3 ☎027-327-2397
●川越店／〒350-0045 埼玉県川越市南通町14-4 ☎0492-26-6751
●甲府店／〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町481-1 ☎055-221-0141
●宇都宮今泉店／〒321-0962 栃木県宇都宮市今泉町1560 ☎028-639-9650
●太田高林店／〒373-0825 群馬県太田市高林東町1386 ☎0276-38-0620
●松本店／〒390-0874 長野県松本市大手3-4-24 ☎0263-36-3039
●長野店／〒380-0825 長野県長野市末広町1356 ☎026-229-7739
●新潟店／〒950-0087 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025-243-6330

●新潟とやの店／〒950-0982 新潟県新潟市堀之内南1-16-52 ☎025-241-5134
●仙台店／〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022-297-2442
●秋田広小路店／〒010-0001 秋田県秋田市中通1-4-5 ☎018-884-1771
●盛岡大通店／〒020-0022 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎019-626-2122
●札幌店／〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西4-8 ☎011-222-3535
●北十二条店／〒001-0012 北海道札幌市北区北十二条西3-5 ☎011-747-3062
●伏古店／〒007-0861 北海道札幌市東区伏古一条4-1-45 ☎011-787-0233
●平岡店／〒004-0874 北海道札幌市清田区平岡四条1-43-9 ☎011-883-4477
●外商部(メールオーダー係)／〒169-0073 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03-3200-7219



ICI 石井スポーツ

事務所／〒169-0073 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004